

「税金のおかげで」

志和池中学校3年 堤 福仁

僕は、脳性麻痺の病気で、車椅子生活です。そのため、障害児福祉手当と特別児童扶養手当というお金を国からもらっています。これは、みんなが一生懸命に働いて国に税金として納めたお金から、いただいたものです。僕はそのお金を、足の装具や歩行するための杖や車椅子等、僕の生活に必要な物に使っています。

僕が成長する度に、足の装具は、毎年新しく作ります。車椅子は、三、四年毎に、新しく作ります。どちらも十万元以上かかり、車椅子は、三十万円以上の費用がかかります。それでも、税金のおかげで、僕は一割負担の支払いで済みます。とてもありがたいです。

しかし、僕はついつい、物を雑に扱ってしまう所があります。車椅子に乗っている時、周りをよく見ない物にぶつかったり、急ブレーキをかけたりしてしまいます。その度に、父や母から、「車椅子は、大切に扱いなさい。この車椅子は、みんなの納めた税金で買ってもらったんだよ。」

と注意をされます。

初めて車椅子に乗った時、自分一人で動きたい時に動けるということに、うれしい気持ちでいっぱいになりました。そんな車椅子生活になって、もう十年経ちます。今では、車椅子が、僕の物であるという事が当たり前になっています。僕が、今こうして生活出来ているのは、たくさんの納税者のおかげでもあると思います。

日本には他にも、僕のような障害者に使われている税金や税金の減免制度等がたくさんあります。調べたら、僕の身近では、自動車税減免、JR運賃の割引、有料道路通行料金の割引、航空運賃の割引、バス運賃の割引、公共施設の使用料、駐車場料金の割引等があります。これも、税金のおかげ、たくさんの納税者のおかげです。

税金は、国民の「健康で豊かな生活」を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源になるそうです。人は一人では生きていけません。特に、僕たち障害者は、人の手助けが必要です。税金は、社会で生きていくための「会費」だと思います。

僕は車椅子生活で歩くことはできません。それでも、リハビリを頑張って、生活の中で自分で出来ることを増やして、勉強もして、大人になって、ちゃんと働けるようになります。僕が働いてもらったお金で、税金をちゃんと納めて、国民のために使ってもらいたいです。